

## タウンミーティング 会議録

日 時：平成19年11月29日（木） 19:00～20:35

場 所：黒部市中央公民館（浦山）

テーマ：1．北陸新幹線新駅周辺の整備推進について

2．新市庁舎の建設について

3．子育て・教育環境の充実について

4．消防・防災体制の充実について

参加者：89人

### 【事務局】

ご苦労さまです。ご案内の時刻になりましたので、ただいまから平成19年度黒部市タウンミーティングを開催させていただきます。

ご案内のとおり、今年も昨年同様、市内4つの中学校校下ごとに開催いたしております。中央公民館が3カ所目ということでございます。

今回のテーマは、前のほうのスクリーンにありますように、北陸新幹線新駅周辺の整備推進について、新市庁舎の建設について、子育て・教育環境の充実について、消防・防災体制の充実について、以上4つのテーマで行いたいと思います。

最初に、市長からこの4つのテーマについてご説明申し上げます。この説明につきましては20分程度要するものと考えております。その後、皆様との意見交換に移りたいと思います。今日、事前に申し込まれた発言の申し込みのあった方は実はおいでになりませんで、本日参加の会場の皆様からご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。今7時ですが、終了時刻は8時半ごろをめどに進めさせていただければと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、本日のタウンミーティングにつきましては、受付のほうでアンケート用紙をお配りいたしております。実際に今日発言できなかった市民の皆様につきましても、日ごろ感じておられることを自由にお書きいただければと思います。お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただくことといたしております。

それでは、早速ですが、堀内市長からごあいさつとテーマに関しまして基本的な考え方を述べさせていただきます。

市長、よろしくお願いいたします。

### 【市長】

**詳細については、「市長あいさつ及び課題提起」をご覧ください。**

### 【事務局】

どうもありがとうございました。

それでは、市長、中央の席にお移り願いたいと思います。

それでは、ただいまから会場の皆様からご意見をお受けしたいと思います。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、ご意見を述べていただきたいと思います。

それともう1つお願いがあります。このタウンミーティングでは、できるだけたくさんの皆様からご意

見をちょうだいしたいと考えておりますので、ご発言につきましては1人3分以内ということをお願いしたいと思います。

それでは、発言を希望される方はいらっしゃいませんか。どなたでも結構です。どんなことでも構いませんので、おられましたらお手を挙げていただきたいと思います。

今、提案したことを聞いてすぐというのなかなか出しづらいのかなと思いますけれども、日ごろお感じになっていることで結構でございますので、あまりかた苦しく考えないでご発言いただければと思います。

【市長】

遠慮なく、それぞれの地域なり各分野のことについて、ご意見なり要望なり言っていただければと思いますが。

【Aさん】

私は、宇奈月町愛本新のAといたします。

私は、ここ15年間ほど大阪へ毎週通って、それから、大阪から東京方面、東京から越後湯沢というように、週2回ぐらいはその線を通っておるので、日ごろ、市長は非常に新幹線の魅力的なということで、7年後に、それが非常に観光を伸ばして栄えるんじゃないかとおっしゃっておりますけど、私も、広島とかあるいは岡山、静岡、そのほか東北新幹線等々も乗っておりますけど、やはり通過型と、終点のところ、ほんとうに観光客を寄せるということになると、いかにしてあそこを魅力ある拠点にするかじゃないと、できた1年、2年は皆さん宇奈月なりに来ますが、それが過ぎますとだんだん観光客が切れてきます。それで、周辺の整備ということでおっしゃっておると思いますんですけど、我々、周辺というのは地元の若栗とかそういうところが何かやはり1つはさっきおっしゃった交通網ということと、やはりほんとうに新幹線の駅の中にそういう魅力がある店というか出品を出すということと、いかにして我々が黒部市をPRしていくかというようなものをどんどんやっていかなきゃならないかと思えます。まずはよろしく。

【市長】

おっしゃるとおりであります。少なくとも7年後には開業します北陸新幹線の東部の駅としての魅力。あくまでも、先ほど言いましたように、交通の拠点、そして、あるいは広域観光の交流の拠点になりますから、駅周辺だけではやっぱりだめです。駅周辺というのはどこを指しているかといいますと、山側といいますか東側、あるいは高速道路の西側、海側です。今現在は、合わせて6ヘクタールほどの位置を駅周辺という形で整備を進めようとしております。そこには当然、黒部らしさ、森の中の駅、あるいは北アルプスの玄関口、立山黒部アルペンルートの玄関口としてのいろんな機能は持たなければならないんですが、あくまでも交流拠点ですから、そこだけでは当然、魅力が足りないわけでありますから、宇奈月温泉、黒部峡谷、あるいは中部山岳国立公園内のいろんな施設など、そしてまた、黒部川扇状地とか海岸部の生地とか石田、そういうものどう広域観光の連携を図るかということが大変重要であります。

確かに、通過型の駅、あるいはストロー現象などが予想されます。そのマイナス部分以上にプラスをつくらないと、せっかく駅ができたのに、かえって人が流出しているということにならないようにしていかなければならない。そのために、これからの7年間をどう準備するかということが大変重要でありますので、ぜひ、どういうふうに魅力をつくっていくかということについてもご意見をいただきたいと思っております。

【事務局】

どうもありがとうございました。  
それでは、ほかの方。

【Bさん】

下立地区のBです。防災の面で要望をお願いします。

11月の27日でしたが、午後14時30分だったと思います。10秒ほど地震のような揺れを感じたんですね。その後、5秒ほどたってからもう一度10秒くらいだったと思いますが、揺れがあったんですよ。それで、その後はテレビでニュースなどを見たりしておったんですが、何の情報もなかったということで不安な時間だったんですよ。

新聞を見ますと、翌日、黒部市内の方から気象台のほうへ問い合わせが何件もあったということを知りました。そういったときに、消防署などは普通、フェーン現象とか台風などのときには広報車で巡回するんですけど、その地震のような感じの揺れがあったときには、消防関係のほうから情報も何もなかったということで大変不安だったんですよ。そういうときに、やはり消防関係のほうから何とかそういった情報を提供していただきたかったなと思います。

そういうことで、今後、地震とかあるいは水害、火災などがあったときに迅速に情報の提供をお願いいたします。

以上です。

【市長】

ありがとうございました。

27日は私は実は県外に行っていて、これを体験しなかったんですが、翌日の新聞を見ましたら、地震計は揺れていないんですね。空気の何か波動だったのではないかと。要は、原因がよくわからなかったということらしいんですが、一部では、能登半島沖に自衛隊の戦闘機が4機飛んでおりまして、2機が音速に入ったということが空気の大きな衝撃をもたらしたのではないかとということが翌日の新聞に出ておりましたけれども、おそらく消防本部にしても、地震計が動いているわけでもないし、何か空気のそういう振動があったということはわかっていたんですが、原因もわからなければ、その原因についても翌日くらいまでいかないと、おおよそこういうことではなかったのかなということが言われておるだけで、翌日にいってでもまだわからなかったというのが現状ではないかと思います。地震とか、あるいは災害とか火災とかということになれば、確実に情報を提供していきたいと思いますが、私もちょっとどういうふうに揺れたのかよくわからないんですが、ガラスとか戸ががたがたという、かなりの揺れがあったということは聞いております。

そういうときにはどうすればいいのかということも、市民の皆さん方が不安を感じられたということも事実でありますので、そういうときの対応もこれから考えていかなければならない。消防本部に言わせれば、想定外の揺れでありましたということしかなかったことだと思います。そういうところもこれから考えていきます。

【事務局】

それでは、次にほかの方、お願いしたいと思います。

後ろの男性の方、お願いいたします。

【Cさん】

下立のCです。

今、私は地震じゃなくて何ていいますか、そういった話があったんですが、今、自主防災組織の話聞きますと、92の組織ができているという話が出ましたが、正直、私どもも実はつくっているんですが、やっぱり一番問題は士気の高揚がますます上げていくというのが現状でありまして、確かに、本年は荻生でやられましたけど、ああいう大きな訓練というのはなかなかできないわけでありまして、もう少しそこら辺を含めて何か小さな形での訓練も考えたりして、やっぱり住民自身の気持ちを高揚させるという何かそういうものが必要でないかと。

それと、もう1つ、実際には市役所さんをお願いすることになると思いますが、例えば、いろいろなビデオやそういうものを実際に持ってきていただいて、それぞれの防災組織、もしくは住民の皆様に聞いていただくとか、見ていただくとか、そういうことで、一定の高揚が上がるとか、そういうことも考えてもいいのかなと。

私が防災組織を初めてつくったときに宇奈月町でつくられたビデオを見たんですが、内容をもう少しいろいろまとめて、おそらくいろんな立派なものもあると思いますのできちんとまとめれば、それぐらいのものができるんじゃないかと思って、そう意味では、ぜひそこら辺も含めて考え方をお聞かせいただきたいなと。

それと、もう1つは施設整備の話で申しわけないんですが、やはりこういう話をして、実際に組織が育ってくると、やっぱり何かそういう気持ちになるということもありますので、だから、今現在、30万円で施設を整備していただいておりますが、やっぱりそういうものをきちんとそろえることによって、そういうものを実際に使ったり何かしながら、それも1つの意識の高揚になるのかなと。それと、そのことによって、やっぱり自分たち自身の安心感を植えつけると。予算的にはなかなか厳しいということもございますし、30万円では買うものは限られていますし、しかも、聞きますと、市長の話と異なることなんですけれども、市長の話では、それは正式的な、どういうことを言われたのかわかりませんが、その30万円の事業も残り3年ほどで終わってしまうんだと。それ以後はないんだと。だから、92の施設があるのに全体に行き渡らないという問題がありますし、きちっとしてどのような形に考えておるのか。大きな施設があるものは、それは市全体で購入していただければいいと思いますが、そうではなくて、特に私らが簡単にできる簡易な形で救助とか、そういう対応ができるようなものについては、おそらく各地に配置したほうがより効率的で効果的だろうと思います。ですから、そのようなものを含めて考えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

【市長】

地域の自主防災組織をいろいろな単位でつくっていただいて、そして、92の自主防災組織ができました。以前から各地区に自主防災組織ができたら、まずそのリーダーを養成するということが重要であろうと。そのためには、リーダーになれるような方々にいろんな研修をしていただいて、今言われるようにビデオも大変有意義、有効だと私は思いますので、ビデオなどを見ていただいたりということをしていかなければならないと思います。

今年は、初めて市の総合防災訓練ということで荻生地区でさせていただきました。来年から各地区を順番に回りたいと思っております。そして、そこに各地区の防災のリーダーの方々に参加していただいて、

ああ、こういうふうにするんだということを理解していただいて、それをまた地元に戻って、こういうふうにやっていたよ、あるいは、これから我々も準備をしておかなければいけないよと、そういうことをぜひ話をしていただきたい。例えば、いっぺんに黒部市全体の総合防災訓練をやったらどうかなどと思って見たときもあったんですが、それだったらほんとうにごくごく一部の方々しか実際の訓練に参加できないということもありまして、少し時間はかかりますが各地区順番に回って、実際に自分たちでやっていたら。そして、ほかの地区からも見学とか参加をしていただいて、各地区でそういういろんな研修等の話をいただく。そういうようなことを進めていきたいと思います。

組織をつくることを優先してまいりましたので、なかなか意識の高揚が難しいともあります。ぜひ、これから各地区で、ビデオなんかは今考えますから、そういうものを見ていただいたりしながら、各地域のいろんな研修なり訓練をそれぞれ考えていっていただきたいなと思います。総合防災訓練は地区を順番に回っていききたいと思いますので、よろしく願いいたします。

施設の整備につきましては、先ほど言ったのは、消防庁舎の施設整備、あるいは、今求められております無線のデジタル対応などの整備につきましては、県のほうでは消防の広域化ということで、今年度中に富山県を4つないし5つに分け、消防の広域化を図っていききたいという方針も出されておりますので、それらに対する我々の対応もあります。そういうことも含めて施設の整備を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

30万円の話につきましては、それで足りるかどうかはわかりませんが、もうしばらくありますので、ぜひ、整備されていないところにつきましては、できるだけ整備を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

#### 【Cさん】

基本的には、全施設、今言った92の施設について、その30万についても対応をすることを頭の中では考えていきたいと、そのように理解してよろしいですか。

#### 【市長】

当然、自主防災組織をつくっていただいておりますので、そういう備品、資機材の整備については、しっかり徹底を進めていきたいと、全組織に整備できるように進めていきたいと考えております。

#### 【事務局】

よろしいでしょうか。

じゃ、Aさん、お願いいたします。

#### 【Aさん】

私ばかり申しわけありませんけど、2番目に言われました新庁舎の建設ということで、先ほど市長が、宇奈月町は37年、黒部市はもう55年たつておると、非常に老朽化しておるとということで、私も早期にそういった新庁舎を建設していかなきゃならないと考えているものです。先ほど市長が、建設の仕組みですとか駐車場とかいろいろおっしゃったけど、場所についてちょっと言われませんでしたので、私もちょっと先ほども言った、方々を歩いて、石川県の県庁は金沢のど真ん中であつたのを、県を全体として考えたのか、ずっと海のほうへ持っていかれて、能登からも近いと、福井市からもいいと、そういったど真ん中に建てたということから推察しまして、黒部市も、三日市もあれば、石田、生地、宇奈月町ということもあ

るので、場所として、私の1つの提案として、今、コラーレの周辺だったら土地も広いし、また、コラーレということは黒部市民としてはもうなじみのあるところですし、いろんなイベントがあるとそこへたくさんの方が入るし、駐車場も非常に多いと。新庁舎の場合はこれから車の時代ですから、そういった十分駐車場がとれるということで、私は場所についてはその周辺がいいかなと常々思っていますので、それを提案させていただきます。

以上です。

#### 【市長】

ありがとうございました。

新市庁舎の建設につきましては、先ほども言いましたように、総合振興計画の基本構想の中で位置づけが決定されて、これからの10年間で建てようということは決まったわけでありまして。そこで、これから、その場所、あるいは規模、機能、そういうものをどういうふうに決めていこうかということについて、まずはそういう議論の進め方などを決める、検討するための組織として、今、黒部市役所の中で庁舎建設の研究会を立ち上げました。両副市長、あるいは各部長などが参加して、今後の検討の仕方を決める研究会をつくりました。そして、来年度に入ってから、それらに基づいて具体的な検討を市民の皆さん方を中心に庁舎検討組織をつくらせていただきたい。そこで、いろいろ場所の問題、どういう場所が必要か、どういう規模、機能、いろんな考え方があると思いますから、そういうものをそこで検討していただいて、大事なことは意見をまとめるということだと思えます。

今日、今年のタウンミーティングの3会場目なんですが、22日、黒部市民会館で行ったときに、実は3人の方から庁舎の場所についてそれぞれ違った提案をいただきました。一人の方は三日市の中心市街地、三日市小学校の跡地などを利用したところに建設すべきだと、その意見、考え方を述べられました。一人の方は新幹線の駅周辺に置くべきだということをおっしゃいました。もう一人の方は山田新、宮野運動公園の駐車場、今現在700台ほどあります。それらを市庁舎の来訪者が利用する。ウィークデーは、月曜日から金曜日までは市役所を中心とした利用の仕方、そして、週末は宮野運動公園を利用される方々が利用する。そして、その庁舎は黒部川扇状地が見おろせて、黒部らしさがあって、また新幹線駅へのアクセスもいいということをおっしゃいました。

そこで、今、Aさんのほうからコラーレ周辺というのは初めて出ました。それぞれ意見があります。大事なものは、さっき言いましたように、市民の合意を得る。意見をまとめないとお実現できませんから、その意見をまとめるということが大変重要です。そのためには、議論の進め方、プロセスが非常に大事です。どのようなプロセスでどう意見をまとめていくか。最後は必ず1カ所にしかできませんから。1つにまとめて、そして実現をするということになります。場所については、これからの議論の中で詰めさせていただきたいと。ぜひ、自分がここがいいという意見を持っておられるのであれば、多くの市民の皆さんに理解をしていただけるような理由の説明をしっかりとさせていただきたいと思えます。

#### 【事務局】

じゃ、そのほかに会場におられる皆さん、どうでしょうか。

じゃ、そちらの男性の方、お願いいたします。

#### 【Dさん】

愛本新のDといいます。いつもお世話になっています。

私も消防と防災の件でちょっとお伺いしたいんですが、ちょっとこの線から外れるかもしれませんが、救急車のことでちょっとお伺いしてよろしいでしょうか。

私も今年の夏、市民病院で手術してもらおうと思ったら、いや、あんた、ここじゃなくて中央病院へ行ってくれと言われたんですが。先日もちょっと新聞を見ておりましたら、南砺市でしたか、防振ベッド付きの高度医療ができる救急車が、県下でも何台もないらしいんですが、それを導入させたと。それで、先日、私の知人の方が急病になって市民病院に行って、CTや何かを撮ったら、いや、ここでは手術ができません。医大の附属病院のほうへ回ってくれとってお医者さんと看護師さんと家族が乗っていったらしいんですが、黒部市の消防にどんな救急車があって、耐用年数がどのくらいたっておるか分かりませんが、ものすごく高速で走るものですから振動がするらしいんですよ。それで、医者から家族からして病人を押さえていなきゃならんという状態であったんです。それで、私が聞きましたら、まるで途中で押さえている本人の息が切れそうやっただとってこの間笑っておられたんですけど、わしも実はこういうことを言われたことがあったと話しております。

これだけ宇奈月温泉もあることですし、いろんな要人とか、そういう外国の方も、あるいは、人様よりも私自身も、こういう寒い時期になりますと脳内出血や何かで倒れる時期になってまいりましたものから、人様よりも自分のために、今後そういう高度医療、あるいは防振ベッドをつけた救急車の対応はいかがかなと思って、ちょっとお願い方々お伺いしたいんですけど、よろしく願いいたします。

#### 【市長】

ありがとうございます。

救急車の設備の内容については、残念ながら把握しておりません。今ほど言われるような、移動のときに、ドクターと看護師、家族の方がついて移送するということはよくある話なので、そういうときに先ほど言われるようなかなりの振動があったということについては、あまり理解できないんですが、そんなに振動があるのかなと思います。そういう点も調べさせていただいて、防振ベッド付きの救急車というのが効果があって、必要なものなら検討したいと思います。

黒部市の市民病院も、それこそ皆さん方に利用してもらって、お客さんのように言うのはいかかと思いますが、大変ご理解いただいて、県内でも優良病院として今経営をさせていただいております。一昨年度まで3年連続で黒字病院としてやらせていただいていたんですが、18年度は残念ながら2,700万円の赤字になり、今年に入りましてそれらについての改善は見られますので、おそらく今年はまだ黒字に戻るものと思います。

そういう中で、それこそ高度医療機器につきましてはかなり整備してきております。今年も今現在、まだ機械は入っておりませんが、3億円ほどの機器が発注段階に入っております。血液の映像の診断システムなんです。その前の年はPET CTを、入れる部屋の改造を含めて2億5、6千万円で整備させていただいたんですが、それにまさるような、先ほどあった脳梗塞とか、脳と血管に関する対応が多いものですから、血液の映像診断システムを入れたりさせていただきながら、これからの病院を円滑に経営を進めていきたいと思っております。

そういう意味からいっても、黒部市民病院の場合には、そういう最新の救急車を求めることというのは、機械的には可能でありますので、そういう点も含めて、必要ならば検討していきたいと思っております。今現在の救急車のレベルというのはちょっとわかりませんが、私はそれなりの救急車を購入しているものと思っておりますが、一度調べてみたいと思っております。

## 【事務局】

それでは、次の方をお願いしたいと思います。

## 【Eさん】

愛本のEと申します。

新幹線駅の整備についてですけど、先日、テレビか新聞だったかで、東北沿線の市長さんの言葉に強く引かれたんですけど、その方が言うておられるのは、駅を見に来るお客さんはいないと。そんなに立派な駅をつくっても、わざわざ駅だけを見に来るお客さんはいないんだと。そういう発言がちょっと印象に残ったんですね。つまり、駅をどんなに立派につくたって、そのまちがよくなかったり見どころがなかったりすれば、お客さんはこの立派な駅にもし来たとしても、それ1回きりで終わってしまうと。黒部市自体全体が生き生きとしたまちであって魅力的なまちならば、駅がそんなにすばらしくなくても、最低限ではちょっとあんまりですけど、機能的に十分機能していれば、お客さんは黒部市のほかの魅力を見に多分何度も来るんじゃないかなと思うんです。

ですから、先ほど新庁舎の件も出ていますが、新庁舎は今までいろんな都市でつくられていますけど、建物ばかり、ハード面ばかりにお金かけて、すごい建物だなという建物は見えますけど、大事なそれはそんなことよりも、その中で働く人とか、そこを使う人たちにとって便利かどうかと、そういうことだと思うんですね。だから、駅にしたって庁舎にしたって、ハード面にお金をかけるより、もっと住民が喜べるようなところにお金を仕向けてもらいたいと思います。

## 【市長】

ありがとうございます。

おっしゃるとおりであります。

まず、新幹線の駅というものについては、駅は鉄道運輸機構、国が作ります。黒部市が駅をつくるわけではありません。黙っていたら、どこにでもある、実は駅の大きさというのは、直線で長さ310メートル、プラットホームが14メートルほどの高さがありますから、それに屋根をかけるわけですから、高さが25メートルございます。25メートルの高さで長さ310メートル、巨大な建物があそこにできます。黙っていたら、どこにでもあるコンクリートの塊のそれができるでしょう。ですから、我々はこの黒部らしさ、あるいは立山黒部アルペンルート、北アルプスの玄関口として、どういう色であって、どういうデザインであるかというようなことについては、それはきちんと考えて注文をつけないといけない。

ほんとうに今、新幹線の駅ができて、地域の活性化にならなかったところはおそらく90%以上でしょう。90%以上は、新幹線の駅がついて地域の活性化にならなかった。ほとんどがだめ。一部あったところがある。その違いはどこにあったのかということをお我々はずっと考えてきたんです。なぜ、新幹線の駅ができて、まちの発展になったところと、ほとんどがならなかったところの違い。失敗した例もたくさん見て来ました。ほんとうにコンクリートの塊の巨大なものが突然、それこそ黒部市に駅ができるような、ああいうところにぼーんとできた。ほとんどが失敗です。そうならないようにするには、幾つか成功例があります。そこは新幹線の駅ができるかなり前から地元で、どういう駅にしてもらおう、あるいはどういう駅周辺にしようということを真剣に考えて、かなり早い段階から動いて、いろんな議論をしたり調べたりして、きちっとした意見を出したところはうまくいく。そうじゃなくて、国のやる事業だからといって何も注文をつけないところはほとんどが失敗しています。

ですから、我々は、旧黒部市の中では、新幹線駅周辺整備計画をどうするかということについては、平



成13年、今から6年前からずっと議論しました。どうあるべきなのか。言われるように、箱物には魅力がないかもしれないけれども、注文しないと、東京のほうで設計したコンサルがまとめた、そういう計画でそのままぽんとつくっていきます。それでは困ると私は思います。北陸自動車道路の黒部インターから700メートルほど魚津側に、一番高速道路に接近している部分、あそこが駅になります。あそこにどういふものができれば黒部にとってふさわしいのかということは、今から考えておかないと、それは注文をつけなければならない。ですから、人任せにしてはだめだということだろうと思います。

ですから、駅舎に含めても、それは国がつくると言っておりますが、当然、駅としての機能は国がつくれますが、それに付随する、そこを訪れる方とか、我々地元の者が利用する、都市機能と我々が言っていることなんですが、交流プラザ的なものは黒部市がやらなければならない。そういうものと駅舎は併設するわけですから、一体感のあるデザイン、機能をつくっていかなければならない。そのことについては、これは黒部市がやらなければならない部分ですから、どうあるべきかということについてはきちっと考えていきたいと思ひます。

それから、建物を見に来る人は当然いません。ただ、今からつくる建物については、かなりこれまでの建物と違って、考え方、徹底して環境に優しい建物をつくったとか、ほんとうに省エネであるとか、使いやすさがよいとか。後につくるわけですから、今までであった駅のいいとこ取りをして、黒部らしいものをどうつくっていくかということが大事だと思いますので、その辺については徹底してこだわっていかなければならない。

庁舎についても一緒です。私は、華美な、要はぜいたくな、豪華な庁舎は必要ではないと思っております。ただ、環境に最大限配慮した、あるいは黒部らしさ。どういふものが黒部らしいのか。木造でつくればいいのか、石でつくればいいのか、どういふデザインにすればいいのか、そういうことにこだわる。ただ、豪華で、何か権力の象徴的なようなものというのは私自身も好きではありませんし、ただ、機能面ですぐれているもの。それと、一番大事なのは、これからの新しい黒部市のやはりまちづくりのシンボル。ここを中心にこれから新しいまちをつくっていくんだというシンボルになるようなもの、そしてまた、そこに市民の皆さんが集まっている議論できるような場というものが私は必要ではないかと思ひますので、そういう点についてもやはり意見をさせていただくということが大変重要でありますので、ぜひこれからもまたご意見を言っていたきたいと思ひます。

#### 【事務局】

それでは、次の方に移りたいと思ひます。どなたかおいでになりますか。

#### 【Fさん】

私が手を挙げるのはおかしいんですけど、時間もあるし、あんまり意見もないので、ちょっと皆さんに提案して、意見を聞きたいと思ひます。

今、新幹線、あるいは新庁舎、膨大な経費が要るわけですがけれども、その財源というのは、この黒部と宇奈月が合併して、財政のほうの発表じゃ250億円もの財政効果がある。ですが、私の試算ではもう少しある、300ほどあるんじゃないか。大変な合併によることで、こういった事業が進められています。

私はその中で、新幹線の黒部駅、この合併を記念して黒部宇奈月を駅名に入れると、こういう提案をしたい。これは、市長がうんと言っても決まらんことなんですけれども、少なくとも宇奈月町民は皆さんどう思っておられるのか、ちょっとお尋ねをしたい。いかがでしょうかね。

新幹線の駅名。我々が合併するときは、こういうこともあるので一緒にならなくてはいけない、という

ことで合併しました。それによっても、新生黒部市の財政というのはこういった大きなプロジェクトができる財政基盤ができたわけですね。せめて宇奈月の町の名前ぐらいは新幹線の駅に入れてくれと、こういうお願いをしたいと思うんですが、どうでしょう。ちょっと賛成の方は拍手をしてください。どうですか。反対はありますか。

【参加者】

字の数に制限はあるんですか。

【Fさん】

数は構いません。たくさんそういうのはあります。ただ、黒部で決まっていなくて決まらんがね。少なくとも、最終的にはJRでないと。去年、JRの幹部とたまたま歓談することがあって、黒部の新幹線の駅に宇奈月を入れてくれんかというお願いをしたら、JRでは非常に大賛成だと。黒部、そして宇奈月というのはやっぱり大きな名前だから、JRとすれば、ぜひそれは地元でまとめて意見を提案してくれと、こういうことでありました。だから、宇奈月の皆さんがそうしてもらいたいという強烈な意見があれば、市長も動かざるを得んです。

これは、仮称が取れるのは3年ぐらいですかね。

【市長】

そうですね。3、4年。

【Fさん】

まだ3、4年あるんですけども、少なくとも宇奈月の皆さんはこの新しい新幹線の駅に黒部宇奈月と入れたいという要望をぜひまとめるため、もう一度ひとつ盛大な拍手を。(拍手)

拍手、全員であります、市長。そういうことで、宇奈月とすれば、ぜひ新幹線の駅に黒部宇奈月という地名を入れていただきたいということを提案したいと思います。よろしくお願いします。

【参加者】

これから3年間、仮称に、黒部宇奈月と入れてよかったんじゃないですか。

【事務局】

済みません、会場全体がそういう雰囲気発言になっているわけですけども、司会が不徳のいたすところで、市長、今のご意見を踏まえて何か。

【市長】

先々日の会場で、列車名を考へろということが発言された方がおられました。列車名。その方は、「たにがわ」とか「とき」というのはどうやってついたのか調べてきましたと。その地域の住民の皆さんのいろんなご意見、要望によってJRが最終的に決めるわけですけども、その方は、駅名も大事だけれども、列車が「くるべ」というのがいいんじゃないかという発言だったんだらうと思いますが、そういうことも含めて、今、Fさんが言われたように、やはり皆さんの意見が非常に尊重されます。JRの方の話だと、できるだけ早く意見をまとめて、そして提言をいただければということでもあります。

そのことについて、近隣の市町との関係もありまして、市が主導してまとめたということについては、それはなかなか難しい話です。ですから、住民の皆さんとか、いろんな組織、観光協会だとか、温泉旅館組合さんだとか、あるいは商工会議所とか商工会などが中心になって、どういう駅名がいいかということについて、それをまとめて、そして提言をしていただければと思います。市のほうとすれば、全面的なご協力をしたいと思っております。

先ほどから言うように、意見を出すということとまとめる、だれか決めてくれようかと思っていたら、自分たちの思ったとおりにはならないということでもありますので、ぜひそういう考え方で決めていただきたいと思っております。

#### 【事務局】

どうもありがとうございました。

それでは、次の方をお願いしたいと思います。どなたかおいでになりますか。

本日のテーマは4つくらいあるわけですが、先ほどから新幹線、新庁舎、消防等につきましても、その3段目の子育てとか教育、こういったことについてのご意見をまだ伺っていないのかなと思っております。こればかりじゃなくてもよろしいですが、どなたかご意見等がございましたら、お願いいたします。

#### 【市長】

遠慮なく言っていただいて結構でありますので、皆さんが気になっていることがまだ幾つもあるように私は思うんですが、よろしいでしょうか。教育関係については、私から言うこともないんですが、旧小学校の跡地の問題などについても、皆さん、それぞれ関心があると思いますが、質問がなければお答えしませんけど。ほんとうに遠慮されなくて結構だと思いますので、よろしくお願いします。

#### 【事務局】

どなたかおいでになりますか。

#### 【Gさん】

ご苦労さんです。下立地区のGです。

黙っておろうかと思ったんですけど、F先輩がいらっしゃったので、気が楽になりまして、時間をちょっととらせていただきます。2、3思いついたことを市長にちょっと問いただしてみたいと思います。

まず、1点目は新庁舎の建設でありますけれども、私たちは合併の条件として、宇奈月に分庁舎があるということは、私たち住民からすれば非常に利便性があって使われています。ただ、残念ながら、財政問題からの視点で、議会なんかで盛んに1,400万円ほどの経費が必要だということを言われておるわけですが、そういうことを前提にして合併をしたわけであるということ、やっぱりもうちょっと認識を深めていただかなきゃならないんじゃないかなと、私はそう思います。確かに市長さんも先ほどおっしゃいましたように、職員が行き交いをせにゃならんということになるわけでありまして、これだけははっきりと市長にも言っておかにはゃならんというのは、やっぱり旧宇奈月町民が、分庁舎がなくなれば1,400万円ほどの経費を住民が背負っていくと、このような感情もあるということ、こういう問題意識があるということ、市長も十分認識していただきたいし、庁舎をつくれる場合には、やはり財政の問題、私は市長のおっしゃったように、大変財政面も課題になると思うんですけれども、まちづくりもするという部分があったとしても、1つ参考にしていただきたいのは、旧の宇奈月町では農協の各支所が合併をし

ました。それは行政の責任では決してないわけでありますけれども、大変高齢社会でありますので、弊害がやはりあるということも実態把握をされて、今の庁舎の建設に当たってどういう機能がいいのかとか、旧宇奈月町民が行政サービスを効率的に共有できる自治体を検討していただきたいと思います。

それから、2点目でありますけれども、これは市長にも感謝を申し上げるわけでありますが、宇奈月小学校に今年の4月から学童保育を導入していただきました。大変ありがたく、数は少ないのでありますけれども、利用されておる親たちから非常に喜ばれております。そういう意味では、私は感謝を申し上げるわけでありますが、ただ、残念なのは、私もちょこちょこ学校を見ておるわけでありますけれども、学校施設を利用していると、こういう面から考えますと、やはり学校でありますから、学校行事を優先しなければならないと。今、学童保育の部屋が当たっておるわけでありますけれども、やはり学校行事であれば、その部屋をどうやっても使わにゃならんと、こういうことも実はあるわけですね。そういう意味から考えれば、振興会からも児童館の要望が上がっておると聞いているわけですが、学校、教職員の負担も実質的にはあるのではないかなと、こう思うんですね。それは、お互いに助け合っていく、あるいは地域づくりの観点からはいい面もあるんですけども、それが学校の運営に対してマイナスになれば、せっかくの制度もマイナスになるのではないかなという懸念をするわけでありますので、そこらあたりも、厳しい財政でありますけれども、学校、市民のほうに何かそういう児童館みたいななのをつくっていただければ、もっと機能的になるのではないかなと僕は考えておるわけです。

以上、2点申し上げました。

#### 【市長】

まず、新庁舎の建設に関することであります。

おっしゃられるとおり、旧宇奈月と旧黒部が合併したときに、分庁舎方式をとるということが約束でありました。そして、これまでそういうことで進めさせていただいております。

今後の新しい庁舎につきましては、先ほどから言いますようないろんな課題があります。耐震構造になっていないとか、バリアフリー化がなされておらんとか、いろんな課題がありまして、庁舎を建てようということについては、先ほどから言いますように決定していただきました。

ただ、宇奈月庁舎が今行っている機能の部分で、宇奈月地区の皆さん方の利便性に対してどう配慮していくのかということについては、今議論がなされていないところであります。ですから、新庁舎問題と同時に宇奈月分庁舎の機能をどのようにしていけばいいのかということについては、それは遠慮なくご意見を言っていただいて、やはり宇奈月地区の方々が納得するような、また利便性について配慮されたような、そういう形で進めていかなければならないのかなと思っておりますので、そういう点についてもまた今後ともご意見をいただきたいと思います。

それから、財政面のことについてですが、財政は大変厳しい状況であります。そういう中で、総合振興計画でたくさんの重点課題を出していただいておりますので、それらを実現するには、我々は当然、財政の見通しのあるものについて今回計画させていただいておりますから、財政の見通しが立つということで、10年間で投資的事業については300億円、年間平均30億円程度は見えていけると考えておりますし、また、一方では、今、非常にマスコミ等で実質公債費比率、公債費の割合がどうなのかということについては、富山県で一番悪いと、22.2%についてもどう改善していくのか。今後、それらの重点課題を実現しながらも財政は改善しなくてはいけない。22.2%を平成27年までには健全ラインである18%までには改善するということ。そして、また、起債残高、市債、借金についても一般会計で234億円ほどありますが、それも10年間、今の総合振興計画で計画されておるようなことをそれぞれ実現してでも、なおかつ10年後に

は220まで下げられないだろうかと。要は、借金は増やさないということです。そういうことの条件の中で、今の課題を解決していく、実現していくということが大変重要であると。

その中で、庁舎の問題については、これから機能とか規模について議論するわけですから、庁舎の予算がどれぐらいかかるかについては、なかなかわからないところがありますが、全くわからないでやるなんてことは当然考えておりませんので、おおよその数字は想像できます。それらについて、今、庁舎基金というものは15億円あります。そして、もう1つ、庁舎に関しましては、実は国の補助というものがほとんどございません。要は、わかりやすく言えば、自己資金でやるしかないわけです。15億円は資金を持っています。残りの足りない部分、大体これくらいかなというイメージがあるんですが、それに対して使えるものは特例債だけ。特例債を使えば、正確に言えばちょっと違うんですが、約7割については交付税措置がされるわけですから、残りの3割を実質的に負担すればいいということから計算すれば、これからの10年間でチャンスだなと考えておりますので、そういう財政的な見通しを持ちながら庁舎建設については進めていきたいと思っております。

次に、宇奈月小学校の学童保育につきましては、確かに学校施設を使わせていただいて今始めさせていただいております。学校の近くでも、ほかの施設、児童館、児童センターみたいな話も、学童保育とは別に、黒部市に中央児童センターと東部児童センターと2カ所あります。それらの施設の数を増やすことについては、各地区からいろんな要望がありますので、これからの子育て等を考えれば必要な施設だと思っておりますので、児童館の今後の建設については検討していきたいと思っております。

ただ、学童保育が学校の施設か、外へ出ることがいいかどうかはこれはまた別問題です。ほかの地区でも、グラウンドの横にほかの施設を検討しておられるところもあるんですが、やっぱり子供たちはグラウンドが自由に使えたり、体育館が自由に使えたり、そういう中で放課後を過ごすということが、子供たちにとっても、管理上も、学校の施設を使ったほうがいいのではないかという意見もありますので、児童館をつくるつくらないとは別に、学童保育もどうあるべきかということについては、これからまた皆さんと議論させていただきたいと思っております。

#### 【事務局】

どうもありがとうございました。よろしいでしょうか。

お約束の時間はまだ少々あるようですが、ご意見がございましたら、どうぞ挙手のほうをお願いいたします。女性の方。

#### 【Hさん】

宇奈月のHと申します。今日は小学校のPTAとして参加させていただきました。

現在、統合いたしました宇奈月小学校は、徒歩、バス、電車等、3通りの通学方法で児童が登校しますが、宇奈月温泉地区からは電車で通っております。電車のほうは浦山駅が無人駅であるということ、それから、これから冬季期間ですとか、諸事情、事故などにより電車の遅延などがあり、登下校に正確性がないという不安もあり、できればバスを希望したいのですが、それが無理ということでしたらば、ただいま通学している児童は全額定期券の補助をしていただいております。それで、伺ったところによりますと、その定期券の補助は国が半分、市から半分の補助をいただいているということなんですけれども、国のほうの補助は22年度でしたでしょうかに打ち切られるということで、そういうお話があったものですから、PTAの中では、国の分の補助が自己負担になるのではないかという不安があります。義務教育でもありますので、今後も永久的な継続で補助のほうを市でしていただけるようお願いしたいと思います。それ

とあわせて、中学校のほうも義務教育でありますので、今後検討していただきたいと思います。よろしくお願いたします。

【市長】

ありがとうございました。

通学についてはスクールバスか電車かということにつきましては、なかなかバスということについては、難しいのではないかと。電車通学できるところについては、これまでどおり電車での通学をお願いしたいなと思っております。

定期券の補助については、期限がありまして、5年間、国が2分の1補助してくれますので、市が2分の1補助して、5年間無料にするというような、統合に際しての支援があったということでもあります。これがなくなったらどうなるかということについては、今現在そういう形で通学してもらっておりますので、なかなかなくするというについては難しいんだろうなと、理解されないんだろうなと思っておりますので、今後検討していきたいと思っております。

中学生のほうも、宇奈月温泉方面からだと学校まで7キロほどあるんですか。基本的には中学校は徒歩か自転車ということが基本であります。7キロほどありますし、勾配もありますし、冬季期間は大変だろうということで、このことについても検討していきたいと。検討するというのは、前向きで検討していきたいとは思っております。

それと、もう1つ理解していただきたいのは、距離的にはもっと遠くから自転車で通っている旧黒部の生徒がおります。黒部はスクールバスの出ているところも限られておりますので、例えばうちの近くでも、小学1年生が、遠い者は3キロ以上歩いて中央小学校まで通っています。そういうところから見れば、やはり雪の量とかいろんな違いもありますので一概には言えませんが、そういうところとの公平性も考えながら考えていかなければならないのかなということも思っておりますので、その点をご理解をいただきたいと思っております。

【事務局】

よろしいでしょうか。

大分時間も押しておりますが、最後ということにさせていただきたいと思っております。どなたかおいでになりますか。いらっしゃいませんか。

これまでいろんなご意見をいただきましたが、大体予定の時刻となりましたので、以上をもちまして本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思っております。

それでは、閉会に当たりまして、堀内市長から本日ご参加いただきました市民の皆様へお礼も含めましてごあいさつ申し上げます。

【市長】

ほんとうにお仕事などの後のお疲れのところ、また、遅くまでこのように熱心にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

先ほどもお話し申し上げましたが、やはり、こういう場に出て、お互いにいろんな情報とか目標を共有するということが大変重要であります。また、いろんな意見を言っていただくということが大変重要でありまして、その意見を言っていただいた後は、やはりまとめなければそれぞれの課題の解決につながらないわけでありまして、意見は十分言っていただきたい。そして、最後はまとめるということが大変重要

であります。ぜひ、こういう場に参加いただかなかった、いや、私は聞いていないだとか知らないだとかという話になると、せっかくいろんな意見をまとめてでも、それを実現することがなかなか難しくなります。しかも、今、新しい黒部市にとりましては、合併して、一体感の醸成もそうですし、また、新幹線の駅周辺の整備の話もありましたが、新しい市ができるということは、ほんとうに100年に一度の歴史的な転換期を迎えておるわけでありましたが、そのチャンスをどう生かすかということが大変重要であります。

そのためには、個々の各地区のいろんな要望がたくさんあります。今年も各地区から要望をいただいたわけでありましたが、昨年が382件あったのに対して、今年は市全体で取り組まなければならない大きな課題がたくさんあるから、各地区に要望を絞って出していただきたいとお願いしたら、何と432出ました。各地区にはそれだけ熱心に検討された結果、要望も出たんだろうと思いますが、市全体の課題を実現するというのと、同時にやはり各地区の皆さん方の要望もあわせて実現していきたい、できるだけ多く実現していかなければならないという大変難しい状況でございます。

そのためには、繰り返しますが、どういう状況で、どういう目標を持ってこれから新しい黒部市が動いていこうとしているのかということについて、しっかりとしたお互いの認識を持つということが大変重要でありますので、ぜひ、こういう場にこれからも参加をしていただくことと、そしてまた、それぞれが意見を言っていただきたいと思えます。そのことが課題の解決につながるものと思えます。

そして、今日は保育所などのお話は出なかったわけでありましたが、大変子供が少なくなってまいりました。保育所等の運営についても、なかなか状況が厳しいところがございます。また、子供に対する認識といたしますか考え方も大分変わってまいりました。どんどん核家族になって、また地域のつながりが少ない中で子育てをするのは、大変若いお母さん、お父さんになってまいりまして、自分たちだけではなかなか子育てが安心してできないという状況の中で、行政に対する期待というものはどんどん増えてまいります。そういう中で、我々は安心して子供を産み育てられる、そういう環境を一方ではつくっていかなくてはならないわけでありませんが、同時に子供の将来も考えていかなければならない。ということは、お父さん、お母さんと子供とのかかわりというもの、子育ての基本というものも見直す必要があるのではないかなということも考えております。

どういう子育てをしていけば、お父さん、お母さんの期待するような子供になったり、また、いろんな社会には犯罪等があふれておりますが、随分不安な状況がございますので、新しい黒部市としてどういう社会を目指して行って、そして、行政の役割と市民の皆さんの役割、あるいはボランティアの組織の役割というものをしっかりと考えて行って、そして、全体でこの地域を支えていくということが大変重要であります。

ぜひそういうことも皆さん方には考えていただいて、いろいろな話をしていただいて、これからお互いに行政と市民の皆さんと協力し合って新しいまちをつくらせていただくことをお願い申し上げます。そして、まずは今日のご参加に御礼を申し上げます。閉会のごあいさつにかえさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

#### 【事務局】

以上をもちまして、閉会とさせていただきます。皆様には、お忘れ物のないようご確認ください。また、黄色いアンケート用紙は、ご記入の上、出口の係員にお渡しください。

どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

了